

イチモンジセセリ成虫のモニタリングに基づく防除適期の把握

古川農業試験場

1 取り上げた理由

イチモンジセセリ（イネツトムシ）による被害は、通常の移植栽培と比較して生育が遅れる直播栽培や晩期栽培において深刻な問題となっている。本種に対しては第2世代若齢幼虫期（加害初期）での防除が効果的であるが、その時期は短期間に限られ、ツトも非常に小さいことから、モニタリングは困難である。この第2世代若齢幼虫による加害時期を、第1世代成虫の飛来時期から予測することを目的とし、これまでの種々の知見をもとにカラー粘着トラップを利用した発生予察法を検討したところ、本手法が防除適期把握の判断材料として利用できることが明らかとなったので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 第2世代若齢幼虫に対する防除適期は、複数枚のトラップに第1世代成虫が誘殺された時期（カラー粘着トラップによる第1世代成虫の飛来開始期）より10日から14日後である（図1、2、3）。
- 2) 設置法としては、濃青色のカラー粘着トラップ（複数枚）を、地際部からの高さ約90cm、地面に対し水平になるよう固定し、畦畔際に設置することが適当である（表1）。

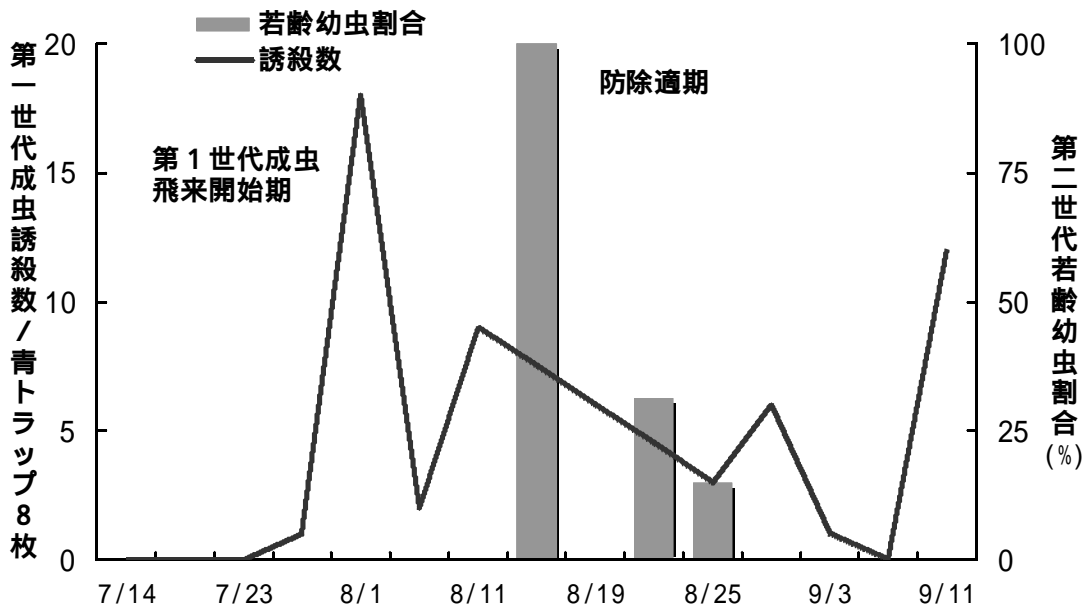


図1 濃青色粘着トラップにおけるイチモンジセセリ第1世代成虫の誘殺数と第2世代若齢幼虫割合の推移(2003年・古川1)

3 利活用の留意点

- 1) 古川1および2，角田の各圃場は、いずれも直播圃場である。
- 2) 古川1と古川2との距離は約550mであるが、両圃場での誘殺消長は一致し、県北部の古川と県南部の角田における第1世代成虫飛来開始期もほぼ一致したことから、本手法は比較的広範囲での適期把握が可能であると推測された。
- 3) 1齢幼虫から3齢幼虫までを若齢幼虫とした。
- 4) 本試験で用いたカラー粘着トラップ（30cm×45cm）の設置は、1圃場当たり8枚とした。
(問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

農作物有害動植物発生予察事業（平成15，16年）

2) 参考データ

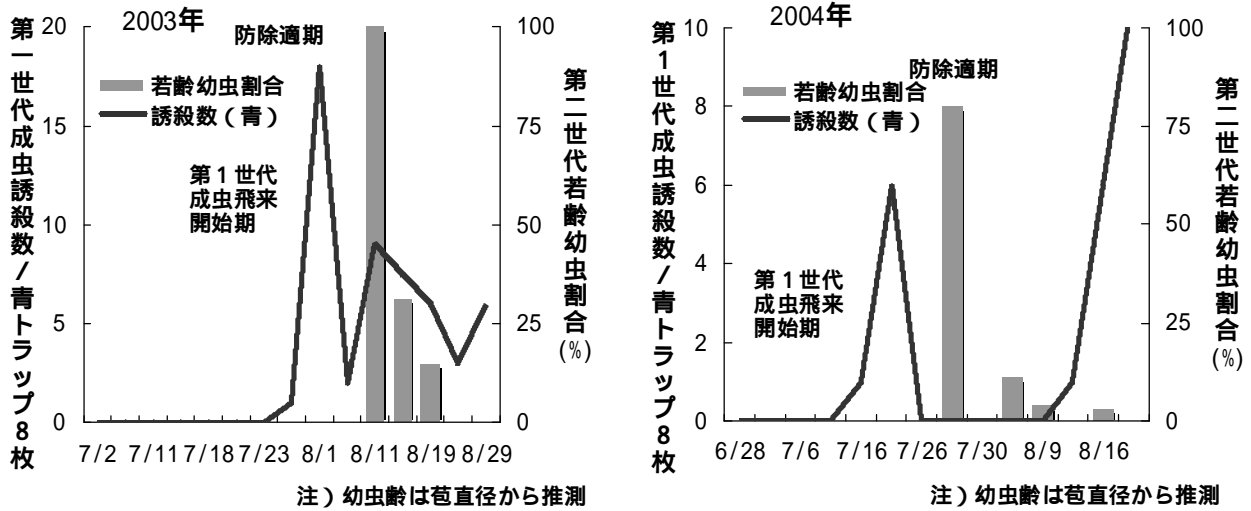


図2 濃青色粘着トラップにおけるイモシバ第1世代成虫の誘殺数と第2世代若齢幼虫割合の推移(年次別・古川1)

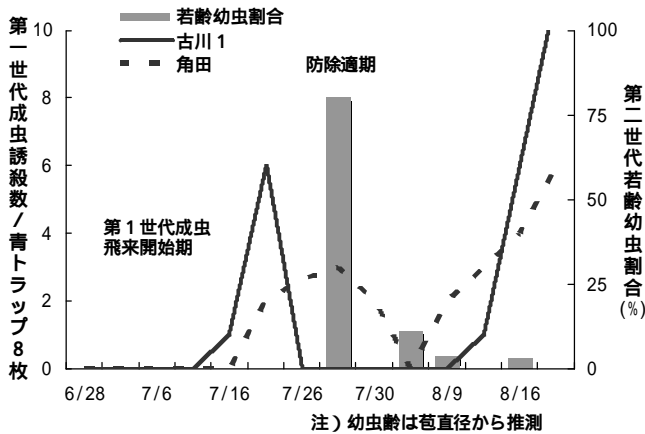


図3 濃青色粘着トラップにおけるイモシバ第1世代成虫の誘殺数と第2世代若齢幼虫割合の推移(地域別・2004年)

表1 トラップ設置条件の分散分析表

要因	水準	最小2乗平均値
色	濃青色	21.33
	濃黄色	3.50
設置法	水平	0.41
	垂直	0.12
設置場所	中心部	0.29
	畦畔際	0.29
高さ	随時変更	10.50
	90cm固定	14.33

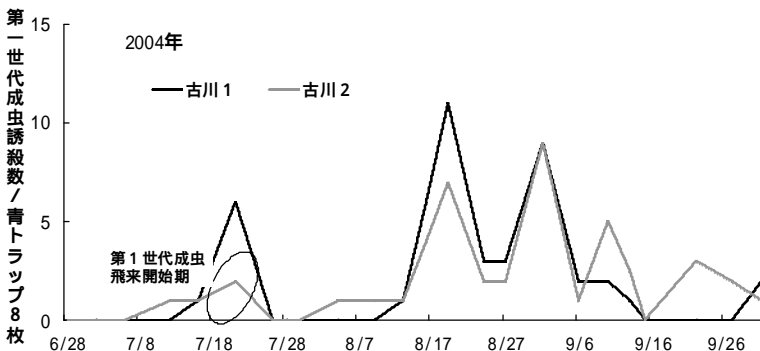


図4 イモシバ第1世代成虫の濃青色粘着トラップにおける誘殺数推移(古川1, 2)

3) 発表論文等

平成15年度農業試験研究成果情報，北日本病害虫研究会第56号(2005)投稿予定